

## 部屋に合わせて換気に心がけを

解説



### ■完成後、入居前には十分な換気を

建物が完成した直後には建築材料、内装材からの化学物質の放散が一番多いと考えられますので、入居する前に換気を十分しておきましょう。

また、高温多湿となる真夏、梅雨時は化学物質の放散が多くなりますので、この時期に入居する場合は特に注意が必要です。

### ■換気設備の適切な運転を

平成 15 年 7 月 1 日以降に着工された住宅などでは、原則として機械換気設備の設置が義務付けられています。また、それ以前の住宅であっても、高气密・高断熱住宅では一定の換気量を確保するため、機械換気設備が設置されていることがあります。

十分な換気を行うためには、外気を十分取り入れられるよう室内に空気の流れをつくったり、システムを常時稼働させるなど、その能力に応じた運転をする必要があります。

### ■長時間生活する居間や寝室などは日頃から十分な換気を

化学物質からの影響を少なくするには、まず、居間や寝室などの日常、長時間生活する部屋の換気を十分に行い、その化学物質の濃度を少しでも下げましょう。

### ■冷暖房時には、定期的な換気を

夏の蒸し暑い時期や冬の寒い時期は冷暖房のために窓を閉めきりにすることが多く、換気が不十分になりがちなので注意が必要です。

特に、暖房器具の種類によってはホルムアルデヒドなどの化学物質が発生するので、換気を心がけましょう。



## 24 時間計画換気システムとは？

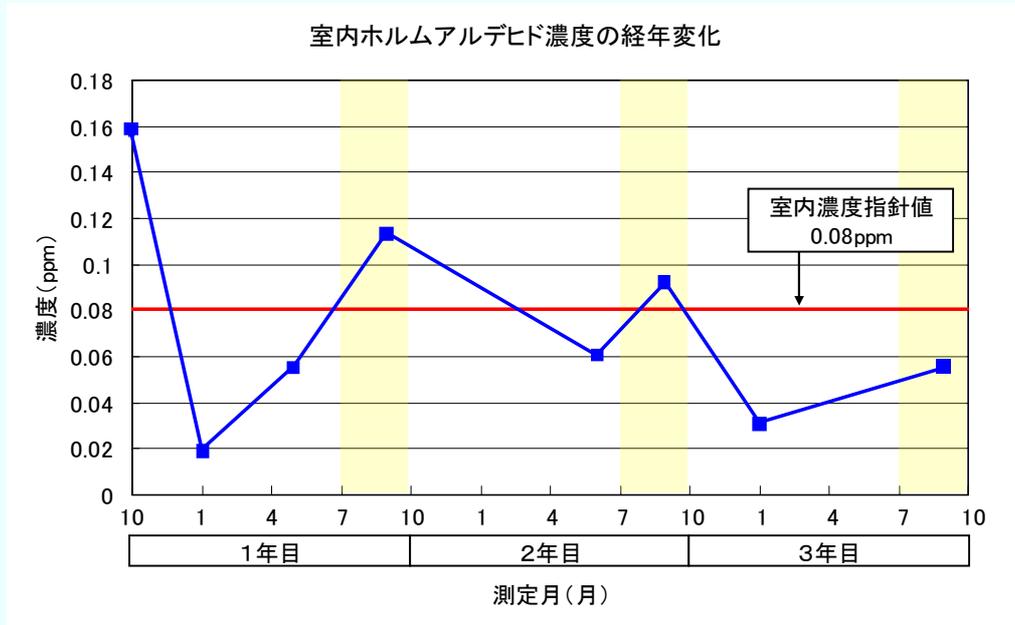
今日の住まいは、気密性が良すぎて自然換気が期待できず、換気不足を起こしやすくなっていることがあります。その結果、ホルムアルデヒドなどの化学物質による室内汚染、湿気による結露やカビの発生、さらに臭いの問題などが発生します。そこで、必要な換気量を確保するために 24 時間連続して換気を行うシステムが導入されています。

従来から、高气密・高断熱住宅の一部ではこのシステムを採用していましたが、平成 15 年 7 月 1 日以降に着工された住宅では機械換気設備が義務付けされており、その多くがこの 24 時間換気システムになると思われます。最近では、換気・冷暖房だけでなく、空気清浄、湿度や気流のコントロールもできるタイプもあります。

このシステムは、24 時間連続して換気を行うことで、建物としてベースとなる換気量を確保するように計画されているため、就寝時や外出時などに止めたりしないことが必要です。また、人が多数集まったりする居間や、台所、浴室、トイレなどで一時的に発生する空気の汚れはその場で換気することが必要になります。

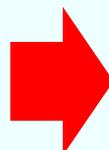
## 室内ホルムアルデヒド濃度について

室内ホルムアルデヒド濃度は『夏季に上昇し、冬季に低下する』という変動を繰り返しながら、徐々に減少していきます。



一般に新築住宅では、室内濃度の増減を繰り返し、3年程度かけて徐々に低下していくようです。

そのため、入居直後に異常が現れなくても、翌年夏の室内濃度の上昇に伴って、症状が現れることもあります。



換気が重要!!